

鷺田ビオトープ通信

第1号

おかげさまでビオトープ完成！

ビオトープの経過。



6月22日、ビオトーブア部による第1回草刈り。



「なんとなん」といって

ビオトープ。おかしな名前です。小さいものから金魚鉢のようなものから大きな沼までいろいろなものがあります。できる限り自然のあるがままの姿を残す「観察の場」となり、「子どもと大人」「地域と地域外の人々」の交流を生みます。さしあたりの目標を7月晦日の「生きもの調査」で捕った生きものをここに放つことに設定。池があると、つい、そこに生きものを入れたくなってしまう。そんなところから地域固有の自然環境が崩れていきます。縁日の金魚、育てるのが面倒になった生きものなどです。これは植物も同じです。



7月23日、池の形を見るため畔になる部分だけ草刈りを行う。左端の縦の道路が県道335号喜多方大平線、右下の大きな灰色が鷺田集会所。中央のY字を横にしたような形が畦道になる部分。やっと全体像が見えてきます。



7月25日、エンジンが動きやすいように畔にする部分を残して耕す予定です。

熱塩加納鷺田地区特有の生きものが生息する

池があれば、かなり魅力的ですよ。

先日の生きもの調査で捕ったミズカマキリ、ドジョウ、ガムシ、コオイムシ、オタマジャクシなどをビオトープに放流しました。今でもミズカマキリが数匹いるはず。

※生きもの調査の様子は裏面の二次元バーコードがアドレスからご覧ください。

さて、外来魚、外来植物は往々にして在来種より強くたくましく日本固有の小さな生き物はひとたまりもありません。身近なところで水草のホテイアオイ、魚類ならニジマス、ブラックバスやアメリカザリガニ、これら「侵略的外来種」だけでなく、日本古来のコイやフナだつて数の少ない生きものにとって強敵です。また、メダカなどは固有の種が失われます。この「鷺田ビオトープ」には熱塩加納固有種がたくさんいるようになって欲しいと願っています。



8月16日 オオイトトンボのオオベコオオトビオトープ約4cmの小さな体。オオトビオは青い。産卵中メスの体は美しい。産卵中メスの体はほとんど流みそうです。

1. そもそも「ビオトープ」って何？

ギリシヤ語の生きもの *βίος* と住む場所 *τόπος* を組み合わせた造語で、「ドイツ語で *biotop*、英語では *biotope* と書

きます。外来生物を排除した生息空間です。そのため、家で飼育した金魚やメダカを入れてはいけません。

あるがままの自然を受け入れること、

2. 池に入ったり、捕ったりしていいの？

池には自由に入ったり、虫や水中生物を捕っても大丈夫。観察し終わったら、元の池に戻してください。自分で面倒

みられるなら、持って帰っても大丈夫。持込みはダメ、持ち帰りはOKです。

3. 高刈り？

畔の草刈りは時間のかかる重労働です。だからさぼっているということではなく、草を握りこぶし分残して刈ることを高刈りと言うそうです。これで虫たちが隠れたり、行き来ができます。

小さな虫を食べる虫をカエルや大きな虫が食べ、さらに鳥や小動物が食べ、という自然循環を促します。

4. ビオトープで見つけたゲンゴロウ？

8月初旬、5センチ近い大ききのゲンゴロウを捕獲・リリースしました。

ゲンゴロウ類は2006年に出版された環境省・レッドデータブックの

絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種）です。ゲンゴロウの名前を持つ他の十二種とともに大切に守

ってあげたいですね。もし見つけたら写真を撮って是非、早めに逃がしてあげてください。他にもタガメや

5. ビオトープの最終形は？

ギンチヨウも絶滅危惧Ⅱ類です。

先ごろ市の天然記念物に指定された町内のミズバシヨウを移植、田植え

で余った稲をいただいて、トンボの産卵場所を作りますが、その他は決

まっています。来年はうまく日陰を作り、夏の暑さから守りたいと思

っています。小鳥の水浴び用の水盤やカブトムシが育つような環境、お弁当を食べられるベンチなども考えていて、会員の皆様のお知恵を拝借したいと思っています。会員登録は無料です。ぜひご登録、アドバイスをいただければと存じます。



※絶滅危惧Ⅱ類は絶滅のおそれのある種（絶滅危惧種）とも言われます。

鷺田ビオトープ通信 第一号
編集協力 熱塩加納未来会議ビオトープ部
2022年8月25日 発行
地域おこし協力隊



鷺田の生きもの調査は <https://ak.nowdo.com> または <https://youtu.be/pdizMr-2xvs> からご覧ください